

..... 編集後記

◆ 今月号も所外から多くのご寄稿をいただきました。当所鉱床部OBの井上さんには、西オーストラリアの塩湖に産する様々な鉱物の奇妙な産状のお話を、多くの写真とともに寄せていただきました。同じくOBの石原さんには、アメリカ西海岸の巨大な花崗岩バソリスについて解説していただきました。北海道日高町からは、新たに開館された日高山脈館の紹介記事を、学芸員の小野さんが執筆して下さいました。

◆ 高等学校の地学部紹介はその3、静岡県立浜松北高校地学部です。1997年度に環境庁長官賞受賞にかがやいた「東南海地震による御前崎地域の被害と地盤」の研究を中心に紹介されています。仮説を立て、それを検証するための調査、様々な実験が、高校生により次々に行われていく様子が描かれています。

◆ 丸井さんと木山さんは、海岸近傍に地下水観測用の井戸を掘り、そこから得られた様々な物理検層のデータに基づいて塩水と淡水の境界を調べた結果を報告して下さいました。降水量の多いわが国では、海岸近傍の海底に地下水がわき出ている、揚水による地盤沈下の心配のない都市部隣接型の新資源として期待されているのだそうです。

◆ 以前から気になるところがあって、書店で見かけた岩波新書の「日本語練習帳(大野 晋著)」を買ってみました。出ていました。長々とした文章を、はっ

きりした意味もなくつないでいる「が」。「が」には、そこで文章を切って、「しかし」で置き換えることができる「逆接のが」もありますが(この「が」がそうです)、そうではなくこれは「一種の留保・抑制を意味している」とありました。この種の「が」は、会合での挨拶や発言の様に、一人が長々と話す言葉の中に多く現れてきます。これを多く使うのは地質屋さんに限らないかも知れませんが(この「が」は留保ですが、逆接とも言えます)、物事を記述しているときには、意識していないとついつい使ってしまう。気にしはじめると、他人の文章の「が」は大変気になるようになります。「日本語練習帳」では、『「が」を使うな』とありました。原稿の推敲の際、心掛けてみるとよいかもしれません。

◆ さる6月、前編集委員長の有田さんが工業技術院長賞を受賞されました。対象となったのは「日本周辺大陸棚の海底細骨材資源の研究」です。有田さんは、昭和49年に地質調査所に入所されて以来、一貫して海底堆積物の研究を続けてこられました。堆積物の採取方法から始まって、その処理や分析方法の工夫、堆積物分布図の表現方法、海底の細骨材(砂利)資源の評価を分かりやすく表示する方法など、有田さんのアイデアによる様々な工夫が海洋地質部の仕事の中に息づいています。おめでとうございます、アイデアマン、有田正史さん。

(湯浅真人)

地質ニュース編集委員会

委員長：湯浅真人

副委員長：石井武政

委員：星住英夫・飯笹幸吉・七山 太・佐々木宗建
佐藤興平・大熊茂雄・石塚 治・木下泰正・
中野 司・遠藤祐二

事務局：総務部業務課広報係(河村幸男・吉田朋弘)

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第539号	1999年	7月号
	定価¥785(本体価格¥748)	〒実費	
1999年7月1日	発行		
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03)3265-0951(代表)		
	Fax. (03)3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

©1999 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。